

FIVE VALUE ASSET

Monthly Newsletter

5 バリュー通信 Vol.23

Date of issue: 2026.09.15

平素よりお世話になっております。5 バリューアセットでございます。今月もマンスリーレターとして5 バリュー通信をお届けいたします。マーケットニュースのご案内の他に、時事に関するコラムなどを月に1 回お届けいたします。お楽しみいただけますと幸いです。

Interview メンバーの言葉

伝統の技術を守り続ける職人の姿に少し憧れる所があります。日々進化し、何でも効率化してしまうこの時代。その流れに乗り切れず、下火になる技術。先日、開催された社内研修の場にて「流儀」の話がありました。職人はそれぞれ、こだわりの独自のやり方、流儀を持っている、と。職人魂。それと対極にあるのがAI でしょうか。

確かに昨今のAI の進歩は、目覚ましいものがあります。先日、夏休みを利用して海外旅行に行ったのですが、現地では生憎4 日連続の雨。する事が無くなってしまったので、試しにAI に聞いてみた所、ガイド本には載っていない新しいアイデアの数々を提案してくれました。最新情報まで物凄く物知り。こりゃスゴい、となりました。聞けば何でも答えてくれるし、異国の地ではより有難く感じたものです。

ここで改めて我々の業界について考えてみますと、ご承知の通り、金融商品の情報については世の中に溢れかえっておりますが、目の前に居られるお客様のご状況に関する情報については、そうではありません。またそれ自体も、10 年前と今と10 年後では、少しずつ変化を遂げるのが常であります。我々のウェルス・マネジメントという仕事は、金融についての専門家である事は勿論のこと、お客様との度重なる会話に喜びと感謝を感じつつ、共に年齢を重ねていく事もまた不可欠な要素であると考えております。年輪を刻むように、いかに時間をかけて関係性を熟成させ、深みを出していけるか。自らの流儀を追い求め、職人の様に一歩ずつ極めていきたいと思っています。



エグゼクティブ・ディレクター

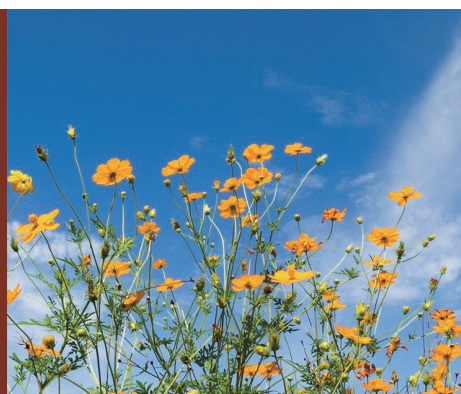
団 いどむ

Topics 今月のトピックス



9 Sep. 2026

- Book Review
- Beauty Contest
- About Tokyo office



- ・新谷 尚紀『神社とは何か』
- ・美人投票
- ・東京オフィス紹介

Book Review 新谷 尚紀『神社とは何か』



新谷 尚紀『神社とは何か』(2021, 講談社)

1948 年、広島県生まれ。1981 年、早稲田大学大学院史学専攻博士後期課程単位取得退学。1998 年、社会学博士（慶應義塾大学）。民俗学者。国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学名誉教授（2025 年 11 月現在）。國學院大學大学院客員教授。専門は日本の葬祭史、信仰史など。主な著書として『柳田民俗学の継承と発展』（2005, 吉川弘文館）、『伊勢神宮と出雲大社』（2009, 講談社）、『民俗学とは何か』（2011, 吉川弘文館）、『神道入門』（2018, 筑摩書房）など。

本書は信仰や宗教に関わる歴史的文化施設という観点に加え、「環境保存機能や公演的機能、自然植物的機能、また、建築構造物の維持のうえでは建築工芸技能の保存伝承機能、美術工芸品や古文書・古記録の諸像と保存の上では美術館・博物館・図書館・研究機関などの諸機能、伝統的な祭礼からは儀礼や芸能の保存伝承機能、さらには観光資源としての機能など、きわめて多面的な機能を有する豊かな文化的有機的な建造物という視点」（246 頁）から神社についての分析を展開し、日本人の自然祭祀の歴史や神社の変遷を辿っていきます。

主な内容は文献史学、遺物考古学、^{トラディショナルロジー}民族伝承学の協業という観点から、「神社」と「^{みや}宮」と「^{やしろ}社」の違い、日本における始祖的な信仰形態である「^{いわくら}磐座祭祀」（例として沖ノ島と三輪山）、伊勢神宮と出雲大社に見る神社の違い、建築様式の差異（住吉造・春日造・流造・入母屋造）、歴史的遺構や観光資源としての神社（^{いわくら}厳島神社）、鳥居の起源や象徴性についてが論じられる全 10 章と、結論部である「おわりに——神社とは何か」で構成されています。

歴史上の記録を参照すると、代表的神社と考えられている伊勢神宮・出雲大社の社殿が確認されるのは概ね 7 世紀頃で、それ以前の古墳時代中期（4 世紀頃）の巨岩に神霊や精霊が宿するという感覚の「^{いわくら}磐座祭祀」が「日本の神社の原点のひとつ」（18 頁）と指摘され、本書では玄海灘の沖ノ島祭祀遺跡や三輪山祭祀遺跡が分析されます。その後は「水源祭祀」、空から神霊や精霊が来臨するという「^{くまのにます}禁足地祭祀」を経て、社殿祭祀・本殿形式、建物としての神社が定着していきます。

本書の前半は祭祀や神社についての概説、中盤は磐座祭祀から本殿建築への変遷、後半が熊野三山 / 熊野三所（熊野坐神社、熊野速玉神社、熊野那智大社）、^{いわくら}厳島神社、若狭大島（福井県）にあるニソの杜、神社と鳥居全般が取り上げられ、個々の章は独立した事例分析となっています。また、文献史学、遺物考古学、民族伝承学の観点に立脚する詳細な分析・解説が主だった内容なので、通読するには情報量が多いと感じる方は、関心のある章毎に読まれることを推奨します。

社殿祭祀の分析では^{いわくら}厳島神社に第 8 章が割かれています。^{いわくら}厳島神社は建築当時（1186 年頃）から暴風雨や高潮などの自然災害を想定して設計された海上社殿で、神仏習合に基づく壮麗な建築様式という特徴があります。また、北条泰時、足利尊氏・義満、毛利元就など時代の権力者にとっても信仰の対象であり、「一般の参詣者にとっても、信仰と観光という表裏一体の意味を基盤的に保持し続けている神社の存在それ自体が、自然に機能している文化資源」（199 頁）であると指摘されるなど、記紀神話にも登場する伊勢神宮・出雲大社とは異なる歴史を持つ象徴的な神社といえます。

祭祀や神社は自然と密接な関りを持っており、著者の新谷尚紀さんは日本人にとっての「神」は自然の生命力であり、太陽や月星であり、山野河海の恵みと脅威を与えるものと理解され、自然を畏れ敬うために神の社（屋代）を建てた（240 頁）と述べられ、神社とは「自然界の生命力を神として信仰し迎え祭るその場所と建物」（同前）であると総括されます。

磐座祭祀に見られるような自然崇拝が神道の祖先祭祀と仏教の影響と結びつき、思想・信仰形態と共に独自の発展を遂げたものが神社であり、生活習慣、世界の捉え方（特に自然との関わり方）、日本語の中にも神社に関連した文化の影響が、伝統として引き継がれていると感じさせられます。加えて、建築様式から見る社殿や鳥居の分析なども興味深く読み、より多角的に神社を考えるきっかけを提供してくれる一冊です。

（文：鈴木 真吾）

Beauty Contest 美人投票

9月に入り、東京オフィスのある関東地方では長雨が続いています。気温も残暑を感じることは少なく、むしろ白露（今年は9月7日）を過ぎてから朝晩は肌寒さを感じるほどです。8月後半に発表された気象庁の3か月予報によると、9月平均気温（東日本）は平年より高い見込み、9月降水量（東日本太平洋側）はほぼ平年並の見込み、となっています。まだ月折り返しにもなっていないので断言は出来ませんが、どうも体感的には気温は平年並からやや低い、降水量は平年より多い、と思えます。いかに最新の観測機器とデータ分析を用いても、お天気の予測というのは容易ならざるものなのですね。

予測が困難といえば相場も同様です。為替市場のドル円相場は、それまで160円台で方向感も円安基調であったものが、9月に入り急遽反転。円高に舵を切り一時152円台をタッチするに至りました。8月後半においてこの展開を予測できた市場参加者は、ほとんど皆無に等しいのではないのでしょうか。

相場の先行きを正確に予測することは不可能です。ただ、ある材料に対して「市場参加者の大半がどう考えるのか」、という点に思いを巡らせることは非常に重要です。例えばある金融政策ないしは財政政策に対し、その内容の是非ではなく、相場がどう反応するかを先読みするのです。これを私共の世界では「美人投票」と呼んでいます。



ルッキズム（外見至上主義）やセクシズム（性差別）への批判が叫ばれる昨今、「美人投票」とはやや前時代的な例えですが、それもそのはず、これは1936年に経済学者のジョン・メイナード・ケインズがその著書「雇用・利子および貨幣の一般理論」の中で提唱したものなのです。

ケインズは、玄人筋の行う投資は、「100枚の写真の中から最も美人だと思う人に投票してもらい、最も投票が多かった人に投票した人たちに賞品を与える新聞投票」に見立てることができるとしました。ここでのポイントは、賞品を貰うことができるのは得票数が多かった美人ではなく、その美人に投票した者だということです。実際にその様な新聞投票があったのかどうかは知る由もありません。ちなみに、日本で最初の一般女性を対象としたミス・コンテストといわれるものは、1908年に新聞社時事新報が主催した「全国美人写真審査」で、まさに新聞投票なのですが、一等賞品18金ダイヤモンド入り指輪は選出された女性に贈呈されています。

話がそれてしまいましたが、ケインズの「美人投票」のルールでは、「自分が美人だと思う人へ投票するのではなく、参加者の多数の票を集めそうな人に投票するようになる」としたのです。すなわち、相場の世界では、国や企業のファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）も勿論重要ですが、そこから公式の様に算出される値段というものがある訳ではありません。それ以外に風評や思惑、需給関係などによって動く要素も大きいということです。相場の格言の1つに「噂で買って事実で売る」というものがあります。好業績を発表した企業の株が、逆に売り込まれるということがままあります。これは、その好業績はすでに事前に織り込んで買い進まれており、結果が分かった時点で、織り込み済として売られるという現象で、これもある種の「美人投票」と言えるでしょう。

ただ、この「美人投票」も万能ではありません。実力を伴わず期待が先行し過ぎた結果が「バブル」であり、それは早晚弾けることとなります。またどちらかというと短期投資向けの話であり、長期投資では当てはまらないケースも考えられます。先の例では、好業績はその企業が優秀な証拠であり、下げたからといって慌てて売りで追従するのではなく、その企業を信じて長期保有をすればよいのです。また、債券投資の場合、もちろんエントリーポイントを探る上では、相場の上げ下げは気になりますが、一般に、満期まで保有することを前提とすれば、発行体の信用リスク等を除き、購入時点で満期までの利回りをある程度見通すことができます。「美人投票」のゲームに敢えての必要はないのです。

私共も市場参加者の端くれとして、この「美人投票」には常に向き合っておりますが、お客さまへは、目先に囚われず、長期的観点でご提案出来るよう、心掛けています。

（文：野口 智之）



丸の内永楽ビルディング

当社の東京オフィスは大手町の丸の内永楽ビルディングにあり、ファイナンシャルアドバイザーおよびトレーディングや事務のサポートスタッフが勤務しています。
(写真は斉藤代表とスタッフ一同)

メンバーのほぼ全員が前職の外資系証券時代からの同僚で、長年にわたる信頼関係に基づいたチームワークを通じて、より良いサービスをお客さまに提供できるよう努めています。

東京オフィスは今年10月半ばに帝国ホテルタワーへの移転を予定しています。隣接する帝国ホテルは明治23年(1890年)の開業以来140年の歴史を持ち、日本を代表する伝統的なホテルですが、ウェルスマネジメントも起源を辿れば、11世紀のスイスで発祥とされていますので、長い伝統、言い換えれば、上質なクラシック感という点でふさわしい場所だと感じています。

帝国ホテルタワーへの移転後も、お客さまにご満足いただけるサービスをご提供できるようにメンバー一同、努力してまいりますので、今後とも5バリューアセットをよろしくお願い申し上げます。



5Value Asset Co., Ltd.



5バリューアセット株式会社 金融商品仲介事業者 近畿財務局長(金仲)第437号

各商品等にご投資いただく際には商品毎に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。又、各商品等には価格の変動等による損失を生じる恐れがあります。各商品等へのご投資にかかる手数料等およびリスクについては、当該商品等の契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等をよくお読みになり内容について十分にご理解ください。

この通信は、当社ホームページに掲載するほか、当社セミナーにご参加いただいた方、業務提携をいただいた方、およびIFA口座をお申し込みいただいた方に送付しております。送付の停止・送付先変更をご希望の場合は、大変お手数ですが下記のメールにご連絡ください。送付の停止・送付先変更には、少々お時間をいただく場合がございます。

発信者：5バリューアセット株式会社 クライアント・リレーション

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-1 丸の内永楽ビル20F
newsletter@5valueasset.com